



ミツバチなどが受粉してくれますが、きちんと受粉できないと奇形果になりやすくなります。花が咲いたら絵筆や綿棒で花の中心をクルクルと撫でてやる方法で、人工授粉するとよいでしょう。実がつき始めたら泥の跳ね返りを防ぐために、広くわらを敷いておきましょう。赤くなったものから順次収穫しますので注意しましょう。

収穫

4月くらいになるとランナーが出る場合がありますが、実に養分を集中させたいので早めに摘み取ります。

追肥・管理

11月と3月に追肥をします。11月の追肥は根を張らせて冬を乗り切るために、3月の追肥は新芽の成長のためです。マルチの穴からばらまいておきましょう。

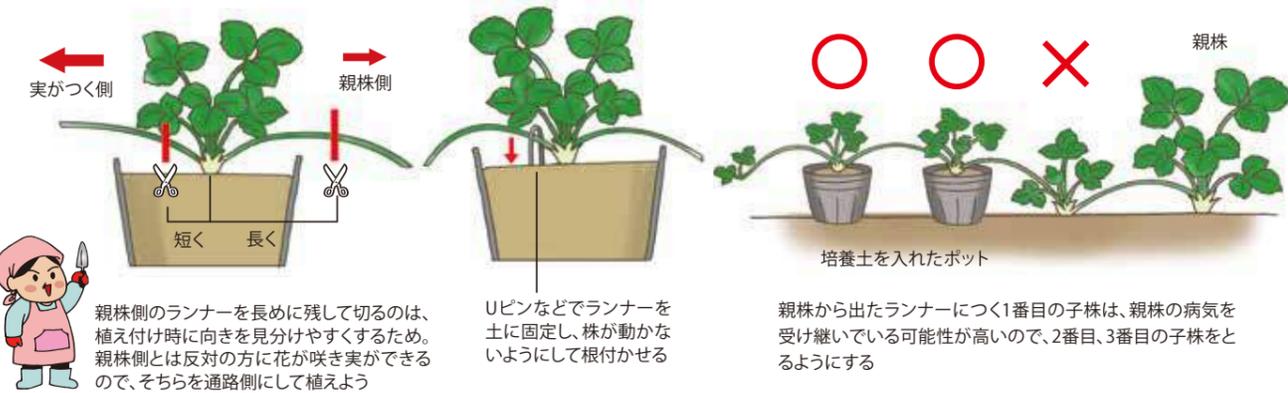
秋植えの苗に花がついている場合は、寒さで実らないので早めに摘んでおきます。

寒さには強いですが霜に当たると葉が枯れます。枯れた葉は春までにかき取っておきましょう。特に、暖かくなってくる3月以降の霜は生育に影響するので、このころから不織布をべた掛けしたり、ビニールでトンネルを作ったりするとよいでしょう。

収穫後に伸びてくるランナーの先につく子株を、来年の苗にすることが出来ます。1番目にできる子株は大きくてよさそうに見えますが、実がつきにくいなど都合なことが多いといわれているので、2番目、3番目の子株を苗に使うのがよいでしょう。

培養土を入れたポットを子株の下に置くと、そのうち根が出ます。ランナーをUピンなどで押さえ、株が土に接するように固定しておくことで根が生えやすいのでおすすめです。1カ月ほどして完全に根付いたら、親株側のランナーを長めに残して切り、先の方のランナーは短く切って苗の出来上がりです。親株を処分し、仕立てた苗を9〜10月に植え直します。

苗取り



今ならお得♪ 数量限定の特別価格!

おすすめ資材

「苗ドーム角型」288円(税込)

苗にかぶせるだけで防霜、防鳥、保温が完了!ドームが簡単に外れないように押さえる針金脚付きです。イチゴなら2株入ります。小松菜やホウレンソウなど、ちょっとした葉物野菜栽培や春先の育苗にも使えます。
※通常価格は300円(税込)です。

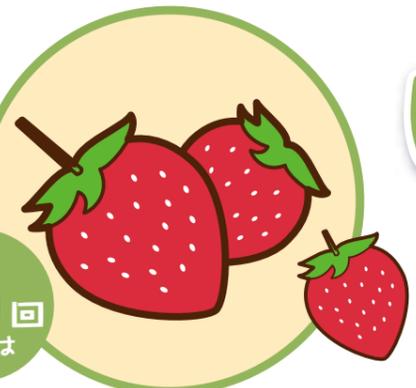
○お求め・お問い合わせは、グリーンファーム各店までどうぞ。

ほうさくClub!に関するお問い合わせは、各グリーンファーム店まで

- ◎中央店 ☎29-8177
- ◎さなだ店 ☎72-8072
- ◎しおだ店 ☎39-8118
- ◎東部店 ☎62-0665
- ◎まるこ店 ☎42-2977
- ◎西部店 ☎22-4091
- ◎よだくぼ南部店 ☎85-2400

ほうさくClub!

第231回
今月は



「イチゴ」に挑戦!

★これがイチゴのスケジュールだよ。 Calendar

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
									定植		
			収穫	苗取り							

※3〜4月も定植可。植えた年の5月に収穫できる。

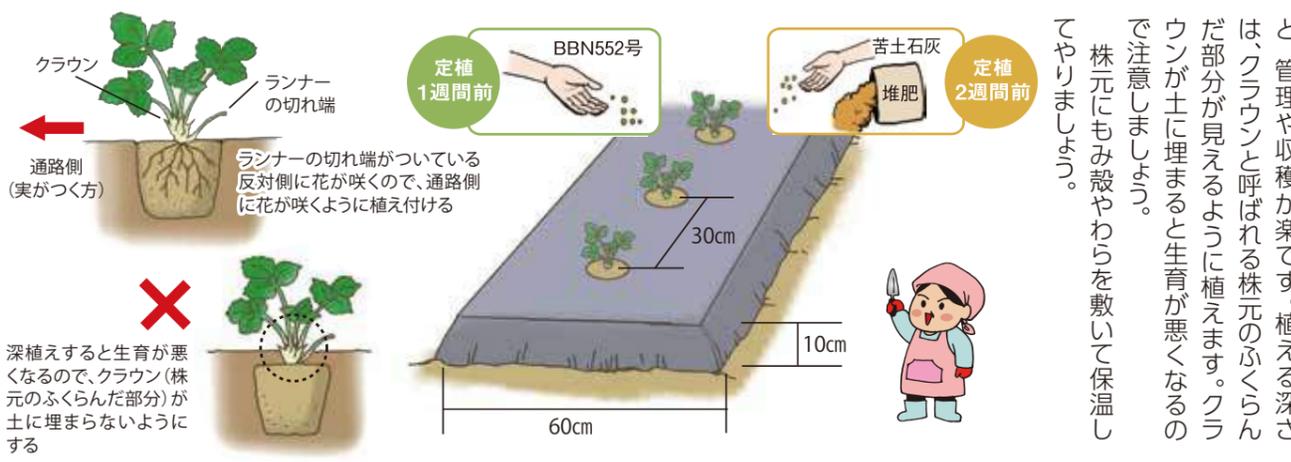
- 施肥基準 (1㎡あたり・一例)
 - 苦土石灰100g
 - 堆肥3kg
 - BBN552号50g
 - BB追肥N30号20g×2回
- 文中の肥料等は一例です。地区によっては違う種類で対応している場合があります。不明な点は、営農技術員にお問い合わせください。

畑の準備・定植

定植の2週間前までに苦土石灰と堆肥を、1週間前までに化成肥料をまいて耕します。幅60cm、高さ10cmのうねを作り、マルチをしておきます。

株間30cmで植えます。この時、苗の向きと植える深さを確認しましょう。苗は種から育っているわけではなく、ランナーと呼ばれる蔓からつくられています。ランナーの切れ端が苗についていて、この切れ端の反対側に花が咲き実がつけます。通路側に花が咲くように植える栽培が復活しているんですよ。

小諸市の御牧ヶ原に「いちご平」という地名があります。今では見る事ができませんが、この場所にはたくさんのおいしいイチゴが自生していたそうです。小粒で酸味が強く、加工用にピッタリでした。明治時代に農家たちが所得向上を目指し、このイチゴを栽培してジャムに加工。地域の産業となりました。このことから小諸市は「イチゴ栽培発祥の地」「ジャム製造発祥の地」を公表しています。実際、日本ジャム工業組合が制定する「ジャムの日」は、御牧のイチゴジャムを明治天皇に献上した4月20日です。今ではジャム工場はなくなってしまいましたが、昭和14年に長野県農業試験場がこのイチゴから「御牧ヶ原1号」「御牧ヶ原2号」を作成。国内各地の試験場で品種改良の親株になりました。現在、「まもろ布引いちご園」で御牧ヶ原1号の栽培が復活しているんですよ。



と、管理や収穫が楽です。植える深さは、クラウンと呼ばれる株元のふくらんだ部分が見えるように植えます。クラウンが土に埋まると生育が悪くなるので注意しましょう。

株元にもみ殻やわらを敷いて保温しやりましょう。